

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○9月14日～

先週は週明けから円高が進行し、円安トレンドに変化が出てきました。

今週は日米ともに政策金利を発表するため結果次第では大きく動くリスクがあります。

日本の利上げは確実だとみられていますが、一部で0.5%の大幅利上げのサプライズがあるかもしれないという予想も出ています。

今回0.25%利上げし、植田・日銀総裁が今後も利上げに前向きな姿勢を見せるというシナリオが市場関係者の予想では多いように感じます。

米国については、先週発表されたインフレ指標を見ると物価上昇が進行しているため利上げをするという予想が強まっていますが、トランプ大統領にケンカを売る形でFRBは利上げに動けるのでしょうか。市場予想では利上げの確率は80—90%程度となっています。

まさかの金利据え置きとなれば、ドルが売られ円が買われる動きが強まるかもしれません。

先週、ECB(欧州中央銀行)は利上げを決定しました。

欧州も原油高などからインフレ懸念が強まっていることから、今後も利上げを継続する可能性が高まっています。

世界的に長期金利が上昇してきていることも気になります。

インフレ懸念だけでなく、各国政府が今まで大量の国債を発行する財政出動を行ってきたことから需給にゆがみが出ています。

投資家が長期債の保有リスクを警戒し、世界的に国債利回りが上がってきています。

株価や為替の変動よりも中央銀行や政府にとっては、国債市場が不安定になり、金利上昇が止まらなくなることが一番心配なのではないでしょうか。

米国の10年債利回りが5%を超えていくと株価への逆風も強くなっていきそうです。

また、中東情勢はさらに悪化していきそうです。

サウジアラビアの東西を結ぶパイプラインが攻撃を受け、操業停止となっており、原油価格などに影響が出そうです。

さらに、フーシー派が重要な拠点となるモカ港(イエメン)なども占拠しているようです。

原油価格は先週、1バレル=100ドルを超える動きとなり、このまま高い状態が続けば経済活動にマイナスです。

米国の中間選挙までに事態がさらに悪化することも考えられるため、今週もニュースはしっかり見ていきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

先週は円高が進み、一時152円台後半まで値を下げて、153.5円あたりでマーケットは終わっています。

テクニカルで見ると週足でも月足でも上昇トレンドが崩れかけています。

今年1月後半つけた152円あたりの安値を割り込んでくると下落が鮮明になってきそうです。

150円を割り込むと中長期的には140円あたりまで下落する可能性も出てきます。

150円を維持できるかどうか重要になってきそうです。

上値は、154円台後半にあるレジスタンスを超えると155.3円あたりが目標となります。

ここを超えて、156円を回復できれば円高リスクはおさまりそうです。

<気になるクロス円>

クロス円もドル／円下落の影響で下がっています。

チャートで見ても9月に入ってから下げが止まらず、週足で見ても2週連続で陰線となっているペアが多くなっています。

ユーロは180円を割り込んできたため中長期的に下落していくリスクが高まりました。

株などが大きく崩れるとクロス円は下げやすく、リスク回避的な動きには注意がいります。

トルコリラは8月以降、再び安値更新の動きとなっているので、下げ止まるまで様子見がよさそうです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では8月貿易統計、7月機械受注、日銀金融政策決定会合（政策金利発表）、8月全国消費者物価指数、植田・日銀総裁定例会見などがあります。

米国では9月ニューヨーク連銀製造業景気指数、8月小売売上高、9月NAHB住宅市場指数、FOMC政策金利、ウォッシュ・FRB議長定例会見、7月対米証券投資、9月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、前週分新規失業保険申請件数、8月住宅着工件数、8月住宅販売保留指数、8月鋳工業生産、8月景気先行指標総合指数などの発表があります。

欧州ではドイツとユーロ圏で9月ZEW景況感調査、ユーロ圏で7月鋳工業生産、8月消費者物価指数などがあります。

ほかには、ニュージーランドで4-6月期GDP、英国で政策金利、英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨の発表などがあります。